令和8年度

旭川市科学館事業活動計画

令和8年4月

旭川市科学館

目　　次

Ⅰ　事業方針等

1　事業方針 1

2　活動目標 1

3　事業の分野及びねらい 2

4　事業の体系 7

Ⅱ　事業活動計画

■　学習普及活動

1　展示事業 10
2　実験実習・体験学習事業 11
3　科学イベント・行事 28
4　天文普及事業 34
5　学校等連携・人材育成事業 41
6　ボランティア等との連携事業 44

■　調査研究活動 45

■　マーケティング活動

1　情報提供とPR活動 46
2　集客活動 49

Ⅰ　事業方針等

1　事業方針

旭川市科学館の設置目的である、科学の理解、普及、学習、研究に資する事業活動は、以下の事業方針に基づき展開する。

1　「ふしぎからはじまる＜科学＞との出会い」をテーマに、体験性を重視した手法で、科学のおもしろさを伝え、楽しく科学への興味や探究心を育む。
2　子どもから大人まで、多様な世代の人々が総合的・横断的に科学を学ぶ機会を提供する。
3　グローバルな視点と地域の視点の双方に立って知識と技術を養い、未来を創造する力を育む。
4　学校や他の教育機関と連携し、理科教育の推進に努める。
5　地域に根ざした自然科学の調査研究活動を行い、その成果を発表し、学習普及活動に還元する。
6　各種媒体を通じた科学館や事業活動の情報発信を行うとともに、教育旅行・コンベンションの誘致等により利用の増進を図る。

2　活動目標

事業方針に基づき、「学習普及」「調査研究」「マーケティング」の活動を推進するものとし、これらの活動は以下の活動目標（目指す状態）の達成に向けて実施する。

■学習普及活動目標
（1）「ふしぎからはじまる＜科学＞との出会い」を具現化するため、展示と事業は、体験要素を多く取り入れた、双方向性の高いものとなっている。
（2）科学に興味をもち、知識や体験を深めることができるよう、継続的に参加できる実験実習や科学イベントが開催されている。
（3）多様な世代の人々に向けて学習の機会が創出され、生涯学習の場が提供されている。
（4）自然とのふれあいや観察を通じて、観察力や創造性を育むことができている。
（5）実験やものづくりの基礎を学び、科学的思考や創造性を育むことができている。
（6）児童生徒の学年や学習目的に応じた、様々なプログラムが提供できている。また、理科教材の開発・提供などにおいて、科学館と学校教育との連携ができている。
（7）ボランティアや科学教育関係者などと協力して、学習普及活動を進めている。
（8）実習生や研修生を積極的に受け入れ、自然科学の普及を担う人材を育成している。
（9）科学館の教育での利活用について、教育関係者に理解が十分なされ、実際に良く活用されている。
（10）他の博物館施設等と連携した学習普及活動が実施されている。

■調査研究活動目標

（11）地域の人材や技術を活用し、近隣自治体や研究機関、専門家等と連携しながら、天体観測や旭川周辺の生物、環境など自然科学に関する調査研究活動を行っている。

（12）教育関係者等と連携、協力し、新たな理科教材や実験実習手法の開発が進められている。

（13）刊行物の発行や講演会の開催等を通じ、調査研究活動の成果が積極的に地域に普及・還元されている。

■マーケティング活動目標

（14）来館者及び事業参加者が必要とする情報を適時的・効果的に提供できており、事業が十分に周知され、多くの人が事業に参加できている。

（15）旭川市博物館や旭山動物園など、設置目的や来館者層が共通した他施設と連携し、学校団体などの誘致に取り組んでいる。

(16)旭川圏域外の学校等に対する周知活動を行い、教育旅行の取り込みを行うほか、学会・会議等の誘致により活用機会の増進が図られている。

3　事業の分野及びねらい

各活動に位置付けられ、それぞれの活動目標に基づき実施する事業は、分野毎に次のようなねらいのもと、企画、実施する。

学習普及活動

■展示事業

（ア）特別展示・企画展示・常設展示

・常設展示は、「北国」「宇宙」「地球」のテーマに沿った展示を行い、これらの展示機器のメインテナンス及び部分的なリニューアルを行うことで、内容と魅力の維持向上を図る。

・企画展示は、常設展示では取り扱わないテーマや、標本・資料類を調査研究した成果を活用した展示を、期間を定めて実施する。

・特別展示は、企画展示・常設展示では取り上げることが難しいテーマや、最先端の科学技術などを楽しく学ぶことができる、双方向性が高く体験型の展示を夏休み等に実施する。

・自然科学分野の調査研究活動の成果を、分かりやすく紹介する。

・ワークシート等の学習補助資料などの開発を進め、分かりやすく楽しい展示としていく。

■実験実習・体験学習事業

社会教育に対する市民からの要望にこたえるべく、年代、参加形態、興味・関心のある分野の多様性に応じ、様々な講座を用意するとともに、参加者の科学知識や学習意欲に応じて、初級から上級まで、段階的に科学・技術を学ぶ機会を提供する。

また科学の原理を楽しみながら学ぶことができるイベントを開催する。

（イ）物理・化学

・実験、工作やショーなど参加体験型の事業を通じ、子どもたちの科学への興味・関心を醸成し、理科離れ・科学離れを防ぐ。
・物理・化学の基本原理や法則を織り込んだ実験や工作を通じ、科学的な動作原理や材料の利用、道具の使い方などの習得を図る。
・継続的な実験実習活動を通じ、暮らしや自然の中の不思議や科学原理・現象を学ぶ楽しさを子どもたちに伝え、科学への興味・関心を醸成する。

（ウ）生物・地学

・身近な自然の中での活動を通じ、生物や生態系、その環境要因を形成している地質学的な成り立ちなどについて学ぶ機会を広く設ける。
・実験や観察、標本作りを通じ生物・地学に関する科学的な考え方や知識を深める。
・サイエンスボランティア旭川等と連携し、普及活動を行う。
・専門家から知識を習得する機会として、フォーラムや講演会、講座などを開催する。

（エ）ものづくり

・「遊びごころ」を取り入れながら、道具の使い方や観察力・創造性を育み、科学に興味や関心を持ってもらう取り組みを進める。
・地域の技術や人材を生かした木工作・クラフト等により、ものづくりという視点から科学に興味を持ってもらうとともに、楽しみながら学ぶことができる活動を行う。
・実験・工作活動を通じて、自ら考え工作する意欲や喜びを体得させ、科学的創意の芽を育む。

（オ）情報技術

・生成ＡＩをはじめとするＡＩ技術が著しく発展している中、テキストや画像、動画、音声、コード（プログラミングコードの生成）などの生成ＡＩを活用したデジタルコンテンツが拡大している状況を踏まえ、ＡＩ技術を身近なものとして感じ、その活用方法等の体験を通じ、未来を創造する力を育む。
・プログラミング的思考を育み、プログラムの作成を実践する場として、講座を開催する。

（カ）野外活動

・近隣の忠別川河畔林や神楽岡公園に囲まれた立地条件を生かし、トンボ池やバタフライガーデンなどの野外自然観察空間における自然観察会や自然体験教室などの野外活動を行う。
・自然環境、生物の現地調査などを市民と実施することで自然に対する興味・関心を拡げる。

■科学イベント・行事

（キ）科学イベント・行事

・来館者の多い土日曜日・祝日を中心に、公開実験や科学工作などの参加体験型のイベントを開催し、子どもたちの科学への興味・関心を育む。

・科学に関する絵画や作文など各種コンクールを開催し、科学に関する話題や研究について興味関心を抱かせる機会とし、科学リテラシーの向上を図る。

（ク）科学情報の発信

・科学的話題や研究結果について、刊行物や映像資料を活用して積極的に情報発信する。

・書籍等による情報提供にとどまらず、光学機器類を利用して観察を行うなど、子どもから大人まで幅広い年代の利用者が自主的に学習できる場であるレファレンスルームの更なる充実に努める。

・事業活動の実績や研究成果などを『館報』や『研究報告』などで広く紹介する。

■天文普及事業

（ケ）プラネタリウム

・一般番組：季節の星や星座・宇宙のほか、天文学の基礎や最新の学説を紹介し、天文に興味を持ってもらう。

・幼児番組：季節ごとの星にまつわる物語などにより、未就学児や小学低学年などの小さな子供に星や宇宙に興味を持ってもらう。

・ドームシアター：全天周番組を上映することで、投影番組に多様性を持たせ、様々な来館者のニーズに応える。

・学習番組：学校教育における天文学習への理解を促進するため、学校の授業だけでは理解が難しい天体の動きや月の満ち欠けなどを疑似体験することにより、子どもたちの天文への関心を深める。

・夜空を彩る星や星座、その時々の天文現象を分かりやすく解説し、天文知識の普及を図るため、観覧者の幅広い年齢層に対応した自主制作による一般番組、学習番組、幼児番組、特別番組の投影を行う。

・一人でも多くの人にプラネタリウムに足を運んでもらうため、話題性のある特別番組を実施するとともに、天文台の観測画像の活用など、施設の相乗効果が発揮できる事業にも取り組む。

（コ）天文台

・天文に関する知識や求めるレベルの異なる様々な来館者に対応し、多様な普及活動を行う。

・最新の天文学や宇宙観測の成果などについて、専門のスタッフや研究者が分かりやすく解説する「星の教室」、太陽や惑星、その他の天体の様子を実際に天文台の大型望遠鏡を使って観測し、その時々の話題や天文現象、観望好時期になる天体について解説する「天体を見る会」等を行う。

■学校等連携・人材育成事業

（サ）学校教育等との連携・人材育成への寄与

・小中学校等の団体利用の際に、学年や目的に応じた様々なプログラムを用意し、総合的な学習などの授業を支援するなど、科学館と学校教育との連携を図る。

・教員や学芸員の実習などを積極的に受け入れるとともに、小・中学校や大学の研究室、公的研究機関等と連携して共同研究の推進や研究活動の発表の場としての活用を図る。

■ボランティア等との連携

（シ）活動支援と自主事業

・学習普及活動及び調査研究活動について、サイエンスボランティア旭川や他の団体と連携して事業運営するとともに、科学館におけるボランティア自主事業についても積極的に展開を支援する。

調査研究活動

（ス）天体観測

・大小2基の天体望遠鏡を活用し、旭川天文同好会や専門家・研究者との協力による天文台運営に取り組み、天体観測の拠点としての機能を高める。

・国内の公設天文台として最も長期間行っている太陽黒点観測を継続して実施するとともに、観測資料など各種調査研究成果の公表と有効活用を図る。

（セ）生物調査

・野外自然観察空間及び周辺の生態系調査をサイエンスボランティア旭川や専門家、市民と協力して継続的に実施し、生態系の復元に伴う種の多様性の変化を観測し、記録する。

・ローカルな視点から、上川盆地及び周辺地域の自然史に関する調査研究に取り組む。

マーケティング活動

（ソ）情報提供とＰＲ活動

・各種印刷物を通じて広くＰＲ活動を行うとともに、市民や利用者とのコミュニケーションを推進し、様々な意見や提言等の科学館運営への反映に努める。

・ホームページ等を充実させ、情報化社会の進展に対応した情報提供を図る。

（タ）集客活動

・修学旅行や学年・クラス単位の学校授業など、団体客誘致を進めるとともに、各種学会・会議等の誘致や受け入れなど施設の有効利用に取り組む。

・旭山動物園など、設置目的や利用者層の共通する部分がある他施設と連携しながら、共催・協力事業の開催等により、小中学校団体見学など市内を始め、道内外各地からの来館者誘致に取り組む。

・観光関係機関・団体が主催する各種誘致宣伝事業に参加し、市外の学校や団体の利用について積極的にＰＲする。

・市民広報や報道機関への情報提供など、様々なツールを活用して周知を行う。

4　事業の体系

■　学習普及活動

1　展示事業

事　　業　　名	
○事業1　　特別展示・企画展示・常設展示	
1-(1)　　企画展「天気のふしぎ」	新規
1-(2)　　常設展示の充実	継続

2　実験実習・体験学習事業

事　　業　　名	
○事業2　　講演・講座	
2-(1)　　市民科学講座「サイエンス・セミナー」「サイエンス・ツアー」	継続
2-(2)　　講演会「野鳥講演会」	継続
○事業3　　実験実習・体験講座	
3-(1)　　科学館クラブ	継続
3-(2)　　親子でチャレンジ！わくわく実験室	継続
3-(3)　　地学体験学習	継続
3-(4)　　生きもの観察	継続
○事業4　　ものづくり教室	
4-(1)　　クラフト・ラボ	改編
4-(2)　　糸のこ体験工作	継続
4-(3)　　テック・ラボ	継続
4-(4)　　デジタル・ラボ	改編
4-(5)　　オープンラボ	拡充
4-(6)　　ふらっとワークショップ	拡充
○事業5　　野外活動	
5-(1)　　地学系事業	継続
5-(2)　　自然系事業	継続

3　科学イベント・行事

事　　業　　名	
○事業6　　科学イベント	
6-(1)　　サイエンススタジオ	継続
6-(2)　　サタデーサイエンスショー	継続
6-(3)　　低温実験	継続
6-(4)　　科学館まつり	継続
6-(5)　　ミニミニ展示	継続
○事業7　　各種行事	
7-(1)　　科学の夢の図画コンクール	継続
7-(2)　　「宇宙の日」全国小・中学生作文・絵画コンテスト	継続
7-(3)　　科学技術週間行事	継続
7-(4)　　科学技術映像祭入選作品上映会	継続
○事業8　　情報と自主的な学習の場の提供	
8-(1)　　レファレンスルームの運営	継続
8-(2)　　動画配信サイトの活用	継続

4　天文普及事業

事　　業　　名	
○事業9　　プラネタリウム事業	
9-(1)　　プラネタリウム一般番組	継続
9-(2)　　プラネタリウム幼児番組	継続
9-(3)　　プラネタリウムドームシアター	継続
9-(4)　　プラネタリウム特別番組	継続
○事業10　　天文台事業	
10-(1)　　星の教室	継続
10-(2)　　親子天文博士	継続
10-(3)　　天体を見る会	継続
10-(4)　　出張天文教室	継続
10-(5)　　夏・冬休み天文教室	継続
10-(6)　　天体を撮る会	継続

5　学校等連携・人材育成事業

事　　業　　名	
○事業11　　学校等連携事業	
11-(1)　　科学館体験学習	継続
11-(2)　　プラネタリウムの学校授業等での活用	継続
11-(3)　　巡回実験教室	継続
○事業12　　人材育成事業	
12-(1)　　実習生の受入れ	継続
12-(2)　　人的ネットワークづくりと人材育成	継続

6　ボランティア等との連携事業

事　　業　　名	
○事業13　　ボランティア事業	
13-(1)　　サイエンスボランティア旭川自主事業	継続

■　調査研究活動

事　　業　　名	
○事業14　　調査研究活動	
14-(1)　　太陽黒点や惑星・月などの天体観測	継続
14-(2)　　野外自然観察空間の生態系調査	継続

■　マーケティング活動

1　情報提供とＰＲ活動

事　　業　　名	
○事業15　　広報活動	
15-(1)　　ホームページ等の運用管理	継続
15-(2)　　市民広報、報道機関への情報提供	継続
○事業16　　刊行物・ＰＲ印刷物の作成	
16-(1)　　『科学館報』の発行	継続
16-(2)　　『旭川市科学館研究報告』『天文略表』の発行	継続
16-(3)　　各種パンフレットなどのPR印刷物の発行	継続

2　集客活動

事　　業　　名	
○事業17　　団体客の受入れ・誘致	
17-(1)　　学校教育旅行や社会福祉事業の受入れ	継続
17-(2)　　観光関係機関・団体と連携した市外団体や観光客利用の誘致	継続
○事業18　　公聴・アンケートの実施	
18-(1)　　来館者アンケートボックスの設置	継続
18-(2)　　事業活動アンケートの実施	継続
○事業19　　他施設・市民団体・学会との連携・協働	
19-(1)　　旭川市博物館や旭山動物園など他施設との連携	継続
19-(2)　　市民団体等との連携・協力	継続

Ⅱ　事業活動計画

■学習普及活動

1　展示事業

○事業1　特別展示・企画展示・常設展示

［事業1-(1)］ 企画展「天気のふしぎ（仮称）」 **［新規］**

身近な科学の一分野である気象学をテーマとして企画展を開催する。

天気のメカニズムや気象現象を科学的に解説し、関連したワークショップを行うことで、市民の科学への関心を高める。また、気候変動や災害との関係性にも着目し、市民に持続可能な行動を促す機会とする。

○内　　容　毎日のニュースでも報道されている天気予報、その中で紹介されている用語、季節の移り変わりの様子、旭川の天気の特徴、天気や気象と関連がある分野等について紹介するほか、大気や水などの気象学における根源的要素や、様々に生じる気象現象について、気候変動との関係性にも着目して解説する。

パネルや模型による展示のほか、ワークショップを行い、幅広い世代に分かりやすく「天気」に対する関心を高める。

○会　　期　令和８年７月１８日（土）～８月３０日（日）

○対　　象　どなたでも

○観 覧 料　無料

○主　　催　企画展開催実行委員会（旭川市教育委員会、旭川市小学校長会、旭川市中学校長会、サイエンスボランティア旭川ほか）

［事業1-(2)］常設展示の充実 **［継続］**

展示の更新や経年劣化が著しい展示物の修繕やリプレースを適切に行い、常設展示室の充実を図る。

○内　　容　星の回転のレザー部分の交換や錯覚の部屋の壁・床・手すりの補修等を行う。そのほか、当館職員が製作した展示物や他館制作のポスター等により、展示の充実を図る。

2　実験実習・体験学習事業

多様な年代、参加形態、興味・関心のある分野に応じて様々な科学教室・講座を用意し、参加者の科学知識や学習意欲に応じて科学を学ぶことができる事業を行う。

○事業2　講演・講座

［事業2-(1)］　市民科学講座「サイエンス･セミナー」「サイエンス・ツアー」　［継続］

自然科学の最新の研究や話題を各分野の専門家から提供し、市民の自然科学に対する興味や関心を高める。

○内　　容　　自然科学に関する様々な話題の提供
○時　　期　　6月～2月
○対　　象　　どなたでも
○定　　員　　50～100人
○講　　師　　名誉館長及び顧問など、各分野の専門家
　　岡田　弘（旭川市科学館名誉館長）　サイエンス・ツアー
　　渡部潤一（旭川市科学館顧問）　サイエンス・セミナー
　　小林快次（旭川市科学館顧問）　サイエンス・セミナー
　　馬場悠男（旭川市科学館顧問）　サイエンス・セミナー

［事業2-(2)］　講演会「野鳥講演会」　［継続］

野鳥や自然の魅力に関する講演を通して自然生態系への理解を深め、その保全意識を高める機会とする。

旭川市博物館及び日本野鳥の会旭川支部と共催し、隔年で開催。（次回は令和９年度）

○内　　容　　野鳥に関する講演
○時　　期　　4 月
○対　　象　　一般
○定　　員　　100 人（事前申込）
○会　　場　　大雪クリスタルホール　国際会議場

○事業 3　実験実習・体験講座

［事業3-(1)］　科学館クラブ　　［継続］

子どもたちが体験しながら自ら科学を学ぶことを狙いとし、実験やものづくりなどのコースごとに基礎的な実習活動を継続的に実施する。

○内　　容　　子どもたちへの自然科学の継続的な普及活動の柱と位置付け、様々な実験実習、工作等を体験する場を提供する。体験しながら自ら科学を学ぶことにより、発見・創造する喜びを感じ、科学への興味・関心を高めることを目的とする。

星・宇宙クラブ	・季節の星座や、その時々に見える天体の解説を行い、科学館の大型望遠鏡を使って観測し、自分の目で実際に天体を見ることで、宇宙の雄大さや天体観測する楽しさを体験する。 ・望遠鏡で観測するだけでなく、回ごとに同じ時刻に見えている星座が西側に移動していくこと、惑星が位置を変えていることなどを実際の空で感じ、体験性を重視した形で天文・科学のおもしろさを伝え、興味や探求心を養うことを目的とする。
いきもの 地球クラブ	・生物の採集や観察など、身近な生物及びその生息環境について体験を通して学ぶ機会を提供する。 ・地域環境に目を向けつつ地球規模で物事を考える意識を育み、生物多様性の視点から他の生物との共存について学ぶ機会とする。
理科クラブ	・小学校中学年を対象として、実験や工作を通じ、科学に対する驚きや楽しさを伝える。「なぜそうなるのか」「どうすればいいのか」など、考える基本姿勢を実習の中で養っていく。
実験クラブ	・小学校高学年を対象とした理科クラブ上級編。比較的高度な理科実験を通じ、物理、化学など自然科学への導入とする。
木工クラフトクラブ	・木材は、加工が容易で強度がある材料として、多用途に用いられてきたことから、特性を理解して扱える技術を身につけることによって、創造力の向上に役立てることを目的とする。
電子工作クラブ	・私たちがくらす社会の基盤となっている技術である、電子工学の基礎を、体験と工作を通じて学ぶ。
デジタルクラブ	・パソコン等デジタル機器を使って、プログラミングや3Dデザイン、デジタルコンテンツ作成などに取り組み、創造性や探究心を養う。

◆星・宇宙クラブ

学習・研修室にて季節の星座や観望好機の惑星の紹介や天文宇宙関連の時事の話題などを解説する。晴れていれば天文台で観測を行い、天候によっては双眼鏡を用いてプラネタリウムで観測会を行う。

内　容（予定）			
回数	5月～9月	回数	11月～3月
1回	春の星・惑星・月	6回	秋の星・惑星・月
2回	春の星・惑星・月	7回	冬の星・惑星
3回	夏の星・月・流星群	8回	冬の星・惑星
4回	太陽・惑星	9回	惑星・月
5回	秋の星・惑星	10回	惑星・月

◆いきもの地球クラブ（テーマの一例）

葉っぱの標本づくり
ヒグマの毛皮にさわってみよう
水生昆虫の観察、野生化アライグマの観察
ウチダザリガニ捕獲体験　など

◆理科クラブ（テーマの一例）

入浴剤
ペットボトルロケット
グミ石けん
牛乳の実験
おんどと「かさ」
ビー玉キーホルダー　など

◆実験クラブ（テーマの一例）

醤油から塩を取り出す
電気を通すもの
生分解性プラスチック
藍染め
CD分光器で光のスペクトル
色を消すもの　など

◆木工クラフトクラブ（テーマの一例）

木工作業について学ぼう
　設計と墨付け、道具の説明
　加工と組み立て
　仕上げと塗装
オリジナル小箱を作ろう！
ミニ家具を作ってみよう

◆電子工作クラブ（テーマの一例）

電気ってなんだろう
いろいろなパーツについて知ろう
LEDをチカチカさせてみよう
はんだづけでやってみよう
電子回路を組み立ててみよう

◆デジタルクラブ

デジタルアートを描いてみよう
3D モデリングに挑戦！
プログラミングでゲームを作ってみよう

○開催期間　通年　5月中旬～3月中旬（星・宇宙クラブ）
通年　5月～12月（いきもの地球クラブ）
前期　5月～7月（理科・実験・木工クラフト・電子工作・デジタルクラブ）
後期　10月～12月（理科・実験・木工クラフト・電子工作・デジタルクラブ）
冬期　1月～3月（理科・実験クラブ）

○開催回数
星・宇宙クラブ	10回
いきもの地球クラブ	8回
理科クラブ、実験クラブ	4回
木工クラフトクラブ	4回
電子工作クラブ	5回
デジタルクラブ	4回

○対 象 等

クラブ名	対　象	定　員	曜日・時間	実習費（予定）
星・宇宙クラブ	小学3年生～中学生の親子	10組	土・日 （4月～9月）午後7時30分～8時30分 （10月～3月）午後7時～8時 ※第4回のみ午前11時～正午	2,500円
いきもの地球クラブ	小学5・6年生	各6人	土：午前10時～正午 日：午前10時～正午	4,000円
理科クラブ	小学3・4年生	16人	土：午前10時～11時30分	2,000円
実験クラブ	小学5・6年生	16人	土：午前10時～11時30分	2,000円
木工クラフトクラブ	小学4～6学生	6人	日：午前10時～正午	4,000円
電子工作クラブ	小学4～6年生	10人	土：午前10時～11時30分ほか	4,500円
デジタルクラブ	小学4～6年生	8人	日：午前10時～正午	4,000円

［事業3-(2)］ 親子でチャレンジ！わくわく実験室 **［継続］**

暮らしや自然の中の不思議をテーマに、親子で協力して木工・パソコン・電子工作・理科に関連する3分野の実験や工作を1回ずつ、毎回違う実習室で体験する。一つの講座で複数の分野を体験することで幅広く科学への興味・関心を高める。

（テーマの一例）

電気はどこからくるの、ビスケットを使ったプログラミング実習、木製小物入れの工作、いろいろなスライムをつくろう、磁石と電磁石など

○開催期間　前期、後期　（土曜日または日曜日、３回）
○対　　象　小学1・2年生と保護者
○定　　員　各回８組×３コース
○参 加 料　材料費等の実習費　2,000円程度

［事業3-(3)］ 地学体験学習 **［継続］**

岩石や鉱物、化石などの様々な体験メニューを通して地学分野に対する関心を高め、地球の仕組みや地域の地質学的な成り立ちを理解する機会を提供する。

(1) 岩石の分類と観察

○内　　容　火成岩・堆積岩・変成岩の標本を顕微鏡で観察し、その違いを学ぶ。
○開催時期　4月
○対　　象　小学生以上
○定　　員　10人
○参 加 料　300円

(2) 砂から見える世界

○内　　容　川と海の砂をふるいで分画して顕微鏡で観察し、その違いを学ぶ。
○開催時期　5月
○対　　象　小学生以上
○定　　員　10人
○参 加 料　300円

(3) アンモナイト化石の中を調べよう

◯内　　容　　アンモナイトの化石を耐水ペーパーで削って内部構造を調べる。
◯開催時期　　7～8月に２回
◯対　　象　　小学生以上
◯定　　員　　各回10人
◯参 加 料　　300円
◯講　　師　　サイエンスボランティア旭川

(4) アンモナイトクリーニング体験

◯内　　容　　参加者がクリーニング作業を行い、化石を岩石の中から取り出す。
◯開催時期　　7～8月に２回
◯対　　象　　小学4年生以上
◯定　　員　　各回10人
◯参 加 料　　300円
◯講　　師　　サイエンスボランティア旭川

(5) マグマをつくろう

◯内　　容　　火砕流に由来する火山灰の融解実験を行い、マグマを身近なものとして体感する機会とする。
◯開催時期　　9月～10月
◯対　　象　　小学生以上
◯定　　員　　10人
◯参 加 料　　300円

(6) 誕生石の標本づくりと鉱物の色

◯内　　容　　さざれ石を用いた誕生石の標本をつくり、鉱物の種類と色の違いを学ぶ。
◯開催時期　　11月～12月
◯対　　象　　小学生以上
◯定　　員　　20人
◯参 加 料　　500円程度

(7) ビスマス結晶づくり

◯内　　容　　低融点金属の融解と結晶化を通して、物性の違いの面白さや地球の構造との関係性を学ぶ。
◯開催時期　　12月～１月
◯対　　象　　小学生以上
◯定　　員　　20人
◯参 加 料　　500円程度

［事業3-(4)］ 生きもの観察 **［継続］**

生物の体の構造を調べ、その仕組みを理解する機会を提供することで、生物学に対する興味・関心を高める。

(1) ウチダザリガニ

◯内　　容　特定外来生物ウチダザリガニ（冷凍保存）の体を詳しく調べる。
◯開催時期　4月
◯対　　象　小学生以上
◯定　　員　10人
◯参 加 料　200円

(2) スルメイカ

◯内　　容　スルメイカ（冷凍保存）の体を詳しく調べる。
◯開催時期　10月
◯対　　象　小学生以上
◯定　　員　10人
◯参 加 料　500円程度

○事業4　ものづくり教室

［事業4-(1)］ クラフト・ラボ　［新規］

クラフトラボでは、旭川の木工文化を生かした本格的な木工体験ができる工作室で、木材の特性や道具の使い方を学びながら、実用的な作品を製作するワークショップを提供する。安全に楽しみながら、手を使った作業を通じて物理的な原理を理解し、ものづくりの感性を養う。

○内容（テーマの一例）

「こどもから大人まで」

・本棚を作ろう （糸鋸、木ねじ）
・ガーデニング用花台を作ろう （糸鋸、金槌）
・イスを作ろう （釘打ち、木ねじ）
・額と写真立てを作ろう （サンディング、塗装）
・子・孫への木の玩具を作ろう （糸鋸、ハンドツール）

「親子向け」

・金槌と釘を使って箱を作ろう （釘打ち）
・道具と機械で親子で小物を作ろう （糸鋸、金槌、接着剤）

○開催回数　年6回程度
○対　　象　小学生以上（小学3年生以下は保護者同伴）
○定　　員　8組程度
○参 加 料　1,000円～5,000円程度

［事業4-(2)］糸のこ体験工作　［継続］

ものづくり教室の日程に合わずに参加できない者や、自由に道具を使ったものづくりを行いたいという来館者に対し、木工機械のうち比較的安全に作業ができ、ニーズが高い「糸のこ」について体験機会を提供する。

○内　　容　木のキーホルダー　など（15分程度で製作できるもの）
○開催時期　年３回程度
○対　　象　どなたでも（小学3年生以下は保護者同伴）
○定　　員　なし、申込不要
○参 加 料　無料

［事業4-(3)］テック・ラボ　［継続］

テック・ラボは、3Dプリンタ等のデジタル工作機器を備えた工作室で、ワークショップや工作教室を通じて基礎的な工作スキルや仕組みを考える力を養う空間となっている。参加者の「作りたい」という気持ちを後押しし、創造力を引き出す環境を提供する。

(1) キッズ電子工作

○内　　容　　オルゴールごまなどのはんだづけ工作
○開催回数　　年4回程度
○対　　象　　小学4年生～中学生
○定　　員　　各回5人
○参 加 料　　3,000円程度

(2) 親子の電子工作

○内　　容　　はんだ付けを伴わない、モーターなどを利用した工作など
○開催回数　　年6回程度
◯対　　象　　小学1～3年生と保護者
○定　　員　　各回8組
○参 加 料　　2,000円程度

(3) たいけんラボ

○内　　容　　小学低学年から大人まで参加可能な、短時間の体験ワークショップとして、デジタル工作機械で出来ることを知り、興味を喚起する機会を提供する。
○開催回数　　年12回程度
○対　　象　　小学生以上
○定　　員　　各回3～8人程度
○参 加 料　　500円程度

[事業4-(4)] デジタル・ラボ　　[新規]

デジタルラボは、PCとデジタルツールを備えた実習室で、さまざまなアプリケーションを使った3Dモデリング、グラフィックデザイン、プログラミングなどの創造的なワークショップを提供し、デジタル技術に親しみながら楽しく学ぶ。

◯内　　容（テーマの一例）

・レッツプログラミング
・デジタルツールで絵を描こう
・3D モデリングにチャレンジ

○開催回数　　年 6 回程度
○対　　象　　小学生以上（小学3年生以下は保護者同伴）
○定　　員　　8組程度
○参 加 料　　500円～1,500円程度

［事業4-(5)］ オープンラボ **［継続］**

科学館2階の工作室の開放事業として、利用者が各室の機器、道具、図書等を活用し、自由なものづくりに取り組むことができる環境を提供する。

○開催時期　通年　主に金曜日・日曜日の午前 10 時～午後 5 時（正午から午後 1 時は閉室）

○対　　象　小学生以上（小学3年生以下は保護者同伴）

○参 加 料　無料（材料費実費を要する場合あり）

［事業4-(6)］ふらっとワークショップ **［継続］**

科学館事業の募集に対して、観光客など事前に講座に応募することが難しい来館者に対して、事前申込不要で当日に気軽にものづくり等を楽しむことが出来る機会を提供する。

○内　　容　各事業で当日参加に対応可能なものづくりや実験等の体験のメニューを提供し、ものづくり等の楽しさが体験できる場を提供する。

○開催時期　通年

○対　　象　どなたでも（小学3年生以下は保護者同伴）

○定　　員　定員を定めないことを基本とするが、定員を定めた方が効果的な実施が見込める場合は、定員を定める。

○参 加 料　500円程度

○事業5　野外活動

野外自然観察空間や、隣接する忠別川河畔林、近郊の河川など科学館及び周辺の豊富な自然環境を活用し、様々な活動を行う。

［事業5-(1)］ 地学系事業 **［継続］**

市内及び近郊の地質学的に特徴的な要素を観察し、自然環境の形成基盤である地質や地形に対する関心を高め、旭川の成り立ちを学ぶ機会とする。

(1) 地学体験バスツアー

○内　　容　周辺地域で見られる様々な地質・地形を通して旭川の成り立ちを探る。

○開催時期　5月～10月に2回を予定
（うち1回をサイエンス・ツアーとし、岡田弘名誉館長を講師とする。）

○対　　象　小学生以上（小学生は保護者同伴）

○定　　員　15人

○参 加 料　500円

(2) 絶景！川登りで変成岩を見よう

○内　　容　川登りを楽しみながら変成岩の転石を観察し、神居古潭変成帯について学ぶ。

○開催時期　7月～8月に2回を予定（初級編・上級編）

○対　　象　　初級編：小学4年生以上（小学生は保護者同伴）
　　上級編：中学生以上
○定　　員　　10人
○参 加 料　　500円
○開催場所　　オロウエン川（現地集合・現地解散）

(3) 河原で石拾い

◯内　　容　　河原の石を拾って観察し、その由来と旭川の成り立ちの関係を学ぶ。
○開催時期　　6月
○対　　象　　小学生以上（小学生は保護者同伴）
○定　　員　　15人
○参 加 料　　200円
○開催場所　　雨紛川、ペーパン川など（現地集合・現地解散）

(4) 旭川層の観察

◯内　　容　　旭川市全域の地下深くに広がる地層「旭川層」を観察し、旭川の成り立ちを学ぶ。
○開催時期　　9月
○対　　象　　小学生以上（小学生は保護者同伴）
○定　　員　　15人
○参 加 料　　200円
○開催場所　　石狩川・秋月橋右岸広場（現地集合・現地解散）

［事業5-(2)］　自然系事業　　**［継続］**

自然の中での体験から生態系の役割や保全の重要性を学び、自然環境に関心を持ち、その大切さを学ぶ機会とする。

(1) 野外自然観察空間　トンボ池の観察

○内　　容　　トンボ池に生息する水生昆虫やプランクトンなどを顕微鏡で観察する。
○開催時期　　6月
○対　　象　　小学生と保護者
○定　　員　　10組
○参 加 料　　100円/人
○開催場所　　自然観察空間（トンボ池）、学習・研修室
○そ の 他　　サイエンスボランティア旭川との共催事業

(2) 特定外来生物ウチダザリガニを捕まえよう

○内　　容　　石狩川水系で繁殖している特定外来生物ウチダザリガニの捕獲を体験し、外来種の影響力や生態系の重要性について学ぶ。

○開催時期　6～9月に3回を予定
○対　　象　小学生以上（小学生は保護者同伴）
○定　　員　各回30人
○参 加 料　小学生 300円、中学生以上 500円
○開催場所　江丹別町嵐山（現地集合・現地解散）
○協　　力　旭川ウチダザリガニ防除隊

(3) 水辺の生きもの観察

○内　　容　忠別川に生息する水生生物を探して観察する。
○開催時期　7月
○対　　象　小学生以上（小学生は保護者同伴）
○定　　員　10人
○参 加 料　200円

(4) 光に集まる昆虫

○内　　容　科学館の周辺で、ライトトラップ法で誘引した昆虫を観察する
○開催時期　7月～8月に 2 回
○対　　象　小学生以上（小学生は保護者同伴）
○定　　員　10人
○参 加 料　200円

(5) シロザケの産卵行動

○内　　容　石狩川（忠別川）に遡上してきたシロザケの成魚を観察し、産卵行動などの生態を学ぶ。
○開催時期　10月
○対　　象　小学生以上（小学生は保護者同伴）
○定　　員　15人
○参 加 料　200円
○開催場所　忠別川河川敷

(6) 冬の自然観察会

○内　　容　スノーシューで科学館周辺を散策し、厳しい冬を生き抜く動植物の様子などを観察する。
○開催時期　1月
○対　　象　小学生以上（小学生は保護者同伴）
○定　　員　15人
○参 加 料　200円

（7）雪崩のメカニズム（道北地方山岳遭難防止対策協議会との共催）

○内　　容　　雪崩の基礎知識を学び、弱層の観察やビーコンなどを使用した遭難者の捜索体験を行う。

○開催時期　　1月～2月

○対　　象　　小学生以上（小学生は保護者同伴）

○定　　員　　12人

○参 加 料　　300円

3　科学イベント・行事

○事業6　科学イベント

多くの来館者が予想される日などを中心に、公開実験や科学工作などの参加体験型のイベントを開催し、子どもたちの科学への興味・関心を育む。

[事業6-(1)]　サイエンススタジオ　　**[継続]**

大型連休等に合わせてワークショップや実験ショーなどを開催し、来館者が気軽に遊びの中から科学に触れあえる機会を提供する。

○内　　容　　原則事前申込不要とし、こどもから大人まで、科学に親しみ楽しむことのできるイベントを開催する。その場で参加できる気軽さと科学への興味の入口になるようなテーマを選定し実施する。

○開催時期　　GWサイエンススタジオ：5月
夏のサイエンススタジオ：8、9月頃
午前10時～午後4時頃

○対　　象　　どなたでも

○参 加 料　　無料

[事業6-(2)]　サタデーサイエンスショー　　**[継続]**

来館した子どもたちが科学を楽しみ、興味を持ってもらうため、土曜日の午後に公開実験ショーを行う。

○内　　容　　定期的にテーマを変え実施する。
令和8年度実施予定テーマ
元素、カラフルパワー、音、科学マジック、静電気、空気、錯覚いろいろ、電気の歴史

○開催時期　　毎週土曜日　午後1時30分、午後3時30分　※各回約20分間

○対　　象　　どなたでも

○参 加 料　　常設展示室観覧料

[事業6-(3)]　低温実験　　**[継続]**

低温条件下における様々な自然現象を学ぶため、雪や氷をテーマとした各種実験を行う。

○内　　容　　過冷却水の実験、ダイヤモンドダストの観察、-30℃の世界のシャボン玉　など

○開催時期　　土曜日、日曜日、祝日　※夏休み期間は毎日実施
午前10時、午前11時、午後0時30分、午後1時30分、午後2時30分、午後3時30分
※各回約15分

○対　　象　　小学生以上

○定　　員　　各回10人

○参 加 料　　常設展示室観覧料

［事業6-(4)］ 科学館まつり **［継続］**

文化の日・旧青少年科学館開館記念日に開催。科学館の事業活動をPRする。

○内　　容　　常設展示室及びプラネタリウムの無料開放。理科実験・電子工作・デジタル・木工作の各分野から体験ブースを出展など。

○開催時期　　11月3日（火・祝）

［事業6-(5)］ ミニミニ展示 **［継続］**

自然科学の様々な分野に関する小規模の展示を行い、来館者の興味・関心を高め、知識を深める機会とする。

(1) シロザケ生態展示

○内　　容　　シロザケの生態についてパネル展示とサケトランクキットで学ぶ。

○協　　力　　札幌市豊平川さけ科学館

(2) その他　適切なテーマがあれば、必要に応じて展示する。

○事業7　各種行事

［事業7-(1)］　科学の夢の図画コンクール　　［継続］

次代を担う子どもたちが、科学の夢に関する絵画を自由な発想で楽しく表現することで、科学的な探求心と想像力の伸長を図り、科学に対する親近感を助長させることを目的とする。

○応募資格　　市内の小・中学生
○作品規定　　未発表の作品で未来の科学の夢や未来の世界を描いた作品。
○各学校への取り組み依頼　6月
○作品受付期間　　8月中旬～9月中旬
○展 示 会　　10月
○表 彰 式　　10月（展示会期間中）
○後援機関（令和7年度実績）
旭川市教育研究会図工美術研究部、北海道発明工夫教育連盟、旭川発明協会、北海道新聞旭川支社、朝日新聞北海道支社、読売新聞北海道支社、NHK旭川放送局、札幌テレビ放送株式会社、旭川ユネスコ協会

［事業7-(2)］　「宇宙の日」全国小・中学校作文・絵画コンテスト　　［継続］

小・中学生が宇宙航空・科学技術分野に興味関心を持ち、理解を深めていくことを目的に実施する「『宇宙の日』記念　作文絵画コンテスト」へ、事業協力する。

○内　　容　　「宇宙の日」記念行事として開催される。小・中学生に宇宙や天文について夢と興味を持ってもらうためのコンテスト。当館では作文・絵画の募集及び審査と表彰、最優秀作品の全国展への出品までを協力業務として担当する。
○主　　催　　JAXA（宇宙航空研究開発機構）ほか
○応募締切　　9月12日（土）午後5時（必着）
○作品審査　　審査期間：9月下旬
○表 彰 式　　10月以降予定

［事業7-(3)］　科学技術週間行事　　［継続］

科学技術について広く一般に理解と関心を深めてもらい、日本の科学技術の振興を図る。

○内　　容　　「科学技術週間」は、科学技術について広く一般に理解と関心を深めてもらい、日本の科学技術の振興を図ることを目的として昭和35年2月に制定された。毎年4月18日を含む月曜日に始まり日曜日に終わる1週間に開催される「科学技術週間」に、文部科学省作成による一家に一枚シリーズポスターの配布を行う。
○開 始 日　　4月14日(火)～　※なくなり次第終了
○配布方法　　館内に配置し、自由に持ち帰ってもらう。
○配布枚数　　250枚

［事業7-(4)］　科学技術映像祭入選作品上映会　　**［継続］**

優れた科学技術映像を館内で上映することで科学技術への関心を喚起するとともに、その普及と向上をはかり、社会一般の科学技術教養の向上を資する。

◯内　　容　　（公財）日本科学技術振興財団主催の科学技術映像祭入選作品のうち、館内で上映可能な作品を上映し、科学リテラシーの向上を図る。

◯上映作品　　作品未定

◯開催期間　　土曜日、日曜日、祝日及び長期休暇期間中の平日

◯時　　間　　開館時間中リピート上映

◯対　　象　　どなたでも

◯定　　員　　なし

◯参 加 料　　無料

○事業8　情報と自主的な学習の場の提供

［事業8-(1)］　レファレンスルームの運営　　**［継続］**

書籍等による情報提供にとどまらず、自らが光学機器類を利用して観察を行うなど、子どもから大人まで幅広い年代の利用者が自主的に学習できる場を提供する。

○来館者の主体的・自主的な学習の場、ふしぎからはじまる＜科学＞との出会いの場として、幅広く科学に係る情報、機器類、資料などを備え付けるとともに、常駐の相談員を配置して様々な年齢層の来館者が主体的・自主的に学習できる場とする。

○岩石や化石を調べる、身近な生物の生態を間近で観察する、科学玩具での遊びから科学の原理にふれるなどの体験を通して、子どもから大人まで科学の不思議さや楽しさを味わい深めることができる場を提供する。

○生物・地学分野の調査・実習活動の拠点施設として利用する。

○施設概要

項　　目	内　　容
面　　積	89.64㎡（生物準備室を含む）
収容人数	25人
設　　備	・観察用光学機器：生物顕微鏡、位相差顕微鏡、偏光顕微鏡、実体顕微鏡 ・視聴覚機器　　：各種の学習用映像資料（DVD） ・書籍類　　：各種図鑑、啓蒙書、専門書 ・実験機器　　：乾熱滅菌器、高圧滅菌器、恒温器、岩石カッター ・採集及び標本作成用具 ：植物・昆虫採集用具、岩石採取用具、展翅板、展足板 ・フィールド観察機器 ：双眼鏡、ルーペ、フィールドスコープ、バットディテクター

［事業8-(2)］　動画配信サイトの活用　　**［継続］**

動画配信サイトを活用して、プラネタリウム、実験及び工作などの動画を配信し、科学館に来館しなくても学べる環境を提供する。

季節毎の星空の解説や、実験、自宅でできる工作など、科学館に来館しなくても学べる環境を提供する。

○主な掲載内容　　・実験動画　・工作紹介　・星空解説

4　天文普及事業

○事業9　プラネタリウム事業

天体や天文現象を星空投影や映像を駆使して解説し、天文知識の普及を図ることを目的とする。幅広い年齢層の観覧者に対応し、多くの人たちに親しまれるプラネタリウムにするため、自主制作番組（一般番組、学習番組、幼児番組）のほか、ドームシアターなどを上映する。

また、施設の効果的かつ多目的な利用を推進し、星や宇宙に興味を抱かせ、一人でも多くの人にプラネタリウムに足を運んでもらうため、話題性のある特別番組を上映し、天文台とも連携し相乗効果を発揮できる事業に取り組むことで、集客促進を図っていく。

◆プラネタリウム投影時刻　平日（予定）

平日	9:40～※1	11:00～※2	13:00～	14:00～	15:00～	16:00～
	団体予約	幼児番組 （団体優先）	一般番組	幼児番組	ﾄﾞｰﾑｼｱﾀｰ	一般番組

※１　団体予約がある場合のみ団体向けに投影を実施する。
　　投影開始時刻は団体の希望により、投影スケジュールに支障がない場合に限り変更する場合がある。

※２　団体予約がある場合は番組を変更することがあるが、市内小中学校長期休業期間は、変更しない。

◆プラネタリウム投影時刻　土曜日（予定）

土・日	9:40～※1	11:00～	13:00～	14:00～	15:00～	16:00～
	団体予約	幼児番組	一般番組	幼児番組	ﾄﾞｰﾑｼｱﾀｰ	一般番組

※１　団体予約がある場合のみ団体向けに投影を実施する。
　　投影開始時刻は団体の希望により、投影スケジュールに支障がない場合に限り変更する場合がある。

◆プラネタリウム投影時刻　日曜日・祝日・祝日の振替休日（予定）

祝日等	10:30～	11:30～	13:00～	14:00～	15:00～	16:00～
	幼児番組	ﾄﾞｰﾑｼｱﾀｰ	一般番組	幼児番組	ﾄﾞｰﾑｼｱﾀｰ	一般番組

［事業9-(1)］ プラネタリウム一般番組 **［継続］**

季節の星空や天体、天文現象、最新の宇宙科学を解説し天文知識の普及を図る。

◯内　　容　投影日の夜空の解説を中心に、季節ごとの星座や天文現象・宇宙科学をテーマとした内容について生解説で番組を投影する。

〇予　　定　4月　今日の星空と投影者のお好み解説
5月～6月　宵の明星・金星
7月～8月　流星について
9月～11月　輪の見える惑星・土星
12月～1月　冬・星の輝き
2月～3月　そろって見ごろ火星・木星

［事業9-(2)］ プラネタリウム幼児番組 **［継続］**

未就学児から小学校低学年向けのプラネタリウム番組を製作・投影し、星や宇宙に興味を持つきっかけとし、天文知識の普及に繋げる。

◯内　　容　主に未就学児から小学校低学年向けのプラネタリウム番組を製作し、「なかよしタイム」として投影する。

◯予　　定
4月 1日～ 5月31日　「やまねこのかくれんぼ」
6月 1日～ 6月30日　「よぞらのどうぶつえん」
7月 1日～ 8月 7日　「なつのほしとたなばた」
8月 8日～ 8月31日　「みなみのそらのとりたち」
9月 1日～ 9月30日　「かぐやひめ」
10月 1日～10月31日　「ほしぞらえいご☆せいざのやかたのハロウィン」
11月 1日～12月25日　「クリスマスのふしぎ」
12月26日～ 2月28日　「ふゆのきょうだいぼし」
3月 1日～ 3月31日　「わんわんわん」

［事業9-(3)］ プラネタリウムドームシアター **［継続］**

一般番組では表現できない多様性のある番組展開を行い、幅広い世代層の観覧者がプラネタリウムを楽しむきっかけとし、プラネタリウム利用の促進を図り、天文知識の普及に繋げる。

〇内　　容　全天周映像番組の投影を行う

［事業9-(4)］ プラネタリウム特別番組 **［継続］**

一般投影や幼児番組とは違うテーマで、プラネタリウム投影機の機能を活かした番組を製作し投影する事で、幅広くプラネタリウムの価値を伝え利用の促進を図り、天文知識の普及に繋げる。

〇内　　容　国内外の天文情報にとどまらず、「文学」「歴史」「音楽」「文化」「健康」などの幅広いテーマで番組を製作し投影する。

（令和7年度の例）	6月、11月、2月	プラ寝たリウム
	12月	クリスマス関連の番組
	1月	プラネタリウムでスマホ撮り

○事業 10　天文台事業

天文台への来訪者は、天文に関し様々な関心を持っており、天文に関する知識や求めるレベルも異なっているため、それぞれのニーズに応じた活動が必要である。このため、天文台では講演会や観望会、親子で参加する観測体験会など、多様かつ多彩な普及活動をサイエンスボランティア旭川や天文同好会等の協力を得て実施する。

［事業10-(1)］　星の教室　　**［継続］**

その時々の天文・宇宙の話題を取り上げて解説することで、天文の普及・啓発を図ることを目的としています。

様々な媒体で目にする天文・科学の記事を読んで不思議だなと思ったこと、さらに興味を深めたいと思う探求心をさらに後押しするべく、楽しく学べる場を提供する。

○内　　容

観望好機の天体（惑星・彗星ほか）や天文現象（日食・月食ほか）、天文物理（ブラックホールや重力波の話題ほか）などについて解説を行う。

○開催時期

第1回　5月31日（日）
第2回　7月26日（日）
第3回　9月20日（日）
第4回　11月29日（日）
第5回　1月31日（日）
第6回　3月28日（日）

○開催時刻　　午後2時～4時、（第5回のみ午後2時10分～3時40分）
○対　　象　　どなたでも
○定　　員　　各回 50 人（プラネタリウムを使用する場合は 170 名）
◯参 加 料　　無料
○そ の 他　　旭川天文同好会関係者等を外部講師として依頼する回あり。

［事業10-(2)］　親子天文博士　　**［継続］**

子供から大人まで、多様な世代の人々が天文・科学を学べる機会の提供。親子で実際に天体望遠鏡の組み立てや設置を行うことによって、天体望遠鏡の仕組みや扱う手順を体験的に学び、観測の楽しさなど天文・科学への興味や探求心を育むことを目的とする。

○内　　容

(1) 晴天時

科学館屋上で科学館天文スタッフと一緒に口径10㎝の天体望遠鏡を組み立て、設置し、天体観測を行う。

(2) 曇・雨天時

館内で望遠鏡の組み立て実習やその時期見える星をレクチャーする。

○開催時期　6月　午後7時30分～9時
　　9月　午後7時から8時30分

○対　　象　小学生以上の児童・生徒と保護者

○定　　員　各回6組（12人～20人程度）

○参 加 料　無料

[事業10-(3)]　天体観望会　　**[継続]**

子どもから大人まで多様な世代の人々に天文台の大型望遠鏡で、その時々の天体や天文現象を実際に観測することによって、天文・宇宙に触れる機会と、更なる興味の喚起や知識・体験を深める場を提供することを目的とする。

(1) 天体を見る会

○対　　象　どなたでも（ただし、中学生以下は保護者同伴）

○定　　員　50人

○開 催 日　4～3月　　月1回程度（曇雨天時は解説のみ）

○開催時間　夏期：午後7時30分～9時、冬期：午後7時～8時30分

※開始30分はプラネタリウムにて当日見える天体や星空の事前解説を行う。

※天候が観測に適さない日は解説を延長し、最大1時間程度で終了する。

※開催時間は季節により変更する。月食など天文現象に合わせた時刻の変更・延長もある

○参 加 料　無料

(2) 天体観望会・特別開催

天体を見る会の設定日以外の日でも、天体観測に適した日（夜に雲がない天候であることが確実な日）であれば、当日の告知で天体観望会を開催する。

○対　　象　どなたでも（ただし、中学生以下は保護者同伴）

○定　　員　なし

○開 催 日　4～3月の雲がない日

○開催時間　午後7時から午後9時くらいまで（季節や対象天体による）

○告知方法　科学館ホームページ、及びＸ（旧twitter）

○参 加 料　無料

(3) 天文台での天体観測

メニュー	内　　容
昼間の星の観測 ※普段の天文台公開で実施	・65cm望遠鏡では昼間でも星が見えることを体験してもらう。 ・20cm望遠鏡で太陽黒点を観測する。 ・夏は屋上から旭川の眺望も楽しむ。
夜の星の観測 ※天体を見る会や天体観望会・特別開催で実施	・20cm天文台：月・惑星を中心に観察する。 ・65cm天文台：月のクレーター・惑星の他、微光天体（星雲星団等）も適宜観察する。 ・観測デッキ：移動望遠鏡や双眼鏡を使い、広い範囲の星空を観察。国際宇宙ステーションの通過も観測する。

[事業10-(4)]　出張天文教室　　**[継続]**

依頼のあった小中学校や公民館など、市の所管の施設へ出向き、観望会や天文に関する講座を行い、天文の普及と参加者の天文に対する興味関心の喚起を目的とする。

○内　　容　　パソコン、プロジェクターを使った天文解説や望遠鏡での天体観測
○開催時期　　火～金曜日　午前9時～午後5時30分
※天体観測の場合は日没後の時刻に実施
1回　1～2時間
○対　　象　　市内小中学校、公民館など

[事業10-(5)]　夏・冬休み天文教室　　**[継続]**

工作キットを使用して小型の天体望遠鏡を製作する。製作を通して、原理や仕組みを学び天文への興味と関心を育む。

○内　　容　　天体望遠鏡製作、自由研究に向けた解説や、製作した望遠鏡の使い方の解説
○開催時期　　年に2回（夏・冬休み）　午前10時～正午
○対　　象　　小学4年生～中学生
○定　　員　　各回10人
○参 加 料　　5,000円

［事業10-(6)］ 天体を撮る会 **［継続］**

天体を観測し、それを撮影・記録する楽しさを体験してもらい、天文への新たな興味や関心を促すことを目的とする。

○内　　容　・露出設定の簡単な月や惑星など明るい天体を対象とする。
・レンズ交換式カメラ（一眼レフやミラーレス）を持参してもらい、天文台の望遠鏡に接続して天体撮影を体験してもらう。
・カメラの接続方法や露出設定、フォーカスの合わせ方などをレクチャーする。

○開催時期　年度内の連続した4日間　午後7時～9時

○対　　象　小学生から大人まで、当日レンズ交換式カメラを持参できる方
（中学生以下は保護者同伴）

○定　　員　7人（組）

○参 加 料　無料

5　学校等連携・人材育成事業

○事業11　学校等連携事業

[事業11-(1)]　科学館体験学習　　**[継続]**

小中学校等の団体利用に際し、学年や目的に応じた様々なプログラムを用意し、理科や生活科、更には総合的な学習の時間などの課外授業を支援する。

○内　　容　　理科や生活科、総合的な学習の時間において、科学館を有効に活用してもらうため、小中学校等の団体見学を受け入れ、実験実習やサイエンスショーの実演などを行う。
○実施期間　　通年
○申込受付　　通年
○対　　象　　主として小中学生
○参 加 料　　体験メニューにより無料～12,000円
○定　　員　　それぞれの学習プログラムで実施可能な人数
○学習プログラムのメニュー
　　修学旅行や理科の授業、総合的な学習における調べ学習など各利用形態・目的に応じ、学校等と打ち合わせを行い決定する。

＜科学館体験学習メニューの分野＞
実験工作、サイエンスショー、低温実験、電子工作、パソコン実習、木工作、生物実習、SDGs講座

[事業11-(2)]　プラネタリウムの学校授業等での活用　　**[継続]**

小中学校等の団体利用に際し、学年や目的に応じた番組を用意し、天文学習を支援する。

(1)　学習番組の投影
○内　　容　　学習指導要領に沿った内容の「学習番組」を制作・投影する。
・小学3年生向け学習番組「かげと太陽」
・小学4年生向け学習番組「月と季節の星座」
・小学6年生向け学習番組「月と太陽」
・中学生向け学習番組「地球の動きと星の動き」
・中学生向け学習番組「太陽系と宇宙の構造」
○期　　間　　団体予約に応じて随時実施。（投影は原則平日の9:40からとするが、平日の午前中については、投影スケジュールに支障がない場合に限り変更する場合がある。）

(2) 特別プログラムの実施

○内　　容　　小・中学校の教員と連携して、プラネタリウムを学校の理科授業において活用するオリジナルプログラムを作成・投影する。

○期　　間　　学校側から依頼があれば実施。（授業として行うケースのみ対応する。）

(3) アイヌの星に関する文化についてプラネタリウムを使って学習する「来館学習支援の実施」**[新規]**

○内　　容　　市内中学校の生徒が科学館を訪れ、アイヌの星に関する文化についてプラネタリウムを使って学習する「アイヌの星に関する学習プログラム」を行い、来館時の送迎バスの費用の支援を行う。

○対　　象　　20クラス程度

○実施時期　　11月～1月（中学校理科授業で天文について学習する時期）

[事業11-(3)] 巡回実験教室 **[継続]**

科学館へ来館することが難しい子どもたちへの自然科学普及啓発事業の一つとして、学校や子ども会などへ出向いて工作実習や公開実験を行う。

○内　　容　　科学館体験学習メニューのうち、器材の持ち出しが可能なものを対象に、現地に出張して実験実習を実施する。実施日は整理休館日とし、旅費が発生する場合は相手方負担とする。学校からの依頼については、整理休館日以外でも柔軟に対応する。

○実 施 日　　4月30日(木)、5月29日(金)、6月30日（火)、8月28日（金）、9月30日(水)、10月30日(金)、11月27日(金)、1月29日（金）、2月26日(金)　計９回

○開催時間　　1～2時間程度

○対　　象　　実施を希望する団体

○参 加 料　　体験メニューにより無料～12,000円

○事業12　人材育成事業

［事業12-(1)］　実習生の受入れ　　［継続］

学芸員資格取得を希望する博物館実習生を受け入れ、将来博物館等に関わる人材の育成に寄与する。

○実習期間　　8月下旬を予定
○実習時間　　午前9時～午後5時
○実習場所　　旭川市博物館及び旭川市科学館
○対　　象　　大学又は通信教育で学芸員取得関係の単位を取得済み又は取得中の者
○定　　員　　20人
○募集方法　　大学を通じて受付
○受付期間　　4月1日～5月31日
○実習プログラム
　普及事業、展示案内及び資料整理等を通じ、科学館・博物館の業務を実習する。

◆研修生、インターンシップの受入れ

研修生、インターンシップについて研修目的、日程などを考慮してプログラムを作成し受け入れる。

○募集期間　　通年随時

［事業12-(2)］　人的ネットワークづくりと人材育成　　［継続］

他の科学館や博物館、公的研究機関や各種学会との人的ネットワークづくりを推進する。

○内　　容

他の科学館・博物館の学芸員や公的研究機関や各種学会の研究者と共同で研究事業や講演会、観察会を開催する他、研究発表会や研究大会へ参加するなど、人的ネットワークづくりを進める。また、関係団体が主催する研修会等に参加し、人材育成や人的交流を図る。

6　ボランティア等との連携事業

○事業13　ボランティア事業

［事業13-(1)］　サイエンスボランティア旭川自主事業　　［継続］

サイエンスボランティア旭川に事業機会（諸室の使用や備品類の貸与等も含む）を提供し、独自に企画運営する工作・実験教室等を開催する。

○内　　容　　サイエンスボランティア旭川の会員を中心に、各種工作・実験教室等の科学普及事業を企画・運営する。

○主な事業　　・日曜ワークショップ（不定期）
・かんたん工作（春・夏・冬休みに開催）
・旭川学生の科学展（1月）

■　調査研究活動

○事業14　調査研究活動

［事業14-(1)］　太陽黒点や惑星・月などの天体観測　　［継続］

太陽黒点調査、恒星観測、日食や月食、流星群など天文現象を記録に残し天体観測拠点の一つとしての役割を果たす。

記録した画像やデータは館内掲示物やホームページでの公開、プラネタリウムの投影素材、リーフレットでの活用や、講座などの天文事業で必要なデータや画像を自前で確保することを狙いとする。

(1) 太陽黒点観測などの天体観測

・太陽黒点観測（年間最大200日程度）

開館日の雲のない日に黒点の数や大きさを記録する。

・恒星観測（適宜観測する）

シリウスの伴星（シリウスＢ）を65㎝望遠鏡で撮影する。複数年継続して撮影することにより移動している様子（公転）を捉えることが狙い。

・日食、月食の記録（旭川での次の日食は2030年、月食は数年おきに観測できる）

動画や一定時間ごとの撮影（タイムラプス）などで現象の移り変わりが分かる形で記録する。

・月の観測

月のクレーターや月面Ｘの撮影など。

・惑星の観測

惑星の撮影や、惑星同士の接近や衛星同士の相互食を撮影する。

・その他

彗星、流星群、星雲、星団、国際宇宙ステーションの太陽面・月面通過など、空の明るさや場所などが科学館からでは観測に適さない場合は、機材をもって遠征する。

(2) 太陽黒点観測記録の活用

観測記録を電子データとして記録保存し広く公表する。また、これまでに蓄積された観測記録との比較、検索、情報交換などに役立てる。

［事業14-(2)］　野外自然観察空間の生態系調査　　［継続］

新館造成工事で更地となった科学館敷地について、その植生及び動植物の回復過程を知見として記録するため、野外自然観察空間及び周辺の生態系調査を継続的に実施する。

○実施時期　　5月～10月

○調査内容　　植物及び昆虫（令和8年度は植物）

○調査結果　　調査結果は確認種のリスト化、確認箇所の明示、一定の分析を行った上で、研究報告に掲載し公表する。

■　マーケティング活動

1　情報提供とＰＲ活動

○事業15　広報活動

［事業15-(1)］　ホームページ等の運用管理　［継続］

ホームページやＳＮＳを活用して広く情報提供を行うとともに、市民や利用者とのコミュニケーションを推進し、様々な意見や提言などを反映させていく。

科学館の施設案内や利用方法、事業活動などについてホームページ等を通して広く紹介する。また、市民や利用者とのコミュニケーション活動を推進し、様々な意見や提言などの科学館運営への反映に努める。

○ホームページＵＲＬ　https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/science/

○公式ＳＮＳ

・旭川市科学館　　Ｘ @scipalAsahikawa
　　Instagramscipalasahikawa
・テック・ラボ　　Ｘ @fablabasahikawa
　　Instagramfablabasahikawa
・天文プラネチーム　Ｘ @SCIPALgnf65_zmp

［事業15-(2)］　市民広報、報道機関への情報提供　［継続］

市民広報への掲載や報道機関への情報提供を通し、広く科学館の事業や施設概要をPRすることで、各事業がもつ目標を達成するための一助とする。

○内　　容

□市民広報への掲載

月に一度、市民広報あさひばしへの掲載を依頼する。

□報道機関への情報提供

イベントや展示設備の設置に合わせ、必要に応じて報道機関へ情報提供や報道依頼を行う。

□その他

随時、各種媒体への情報提供や取材依頼に応じる。

○事業16　刊行物・PR印刷物の作成

［事業16-(1)］　『科学館報』の発行　［継続］

科学館の施設概要、前年度の事業実績報告などを紹介する要覧を作成しホームページに掲載する。

○発行時期　　令和8年6月（予定）

○公表方法　　PDF形式により、ホームページ上で公開する。

［事業16-(2)］　『旭川市科学館研究報告』『天文略表』の発行　［継続］

旭川市科学館が実施した事業及び調査研究活動について、その成果を広く市民に周知するため、印刷物として刊行する。

(1) 『旭川市科学館研究報告』第22号の発行

○発行時期　　令和９年３月末

○作成部数　　200部（A4版40頁程度予定）

○配 付 先　　関係機関や学会、視察・研究者などへ配付。ホームページでも公開する。

(2) 『天文略表』の発行

二十四節気・雑節、旭川における日の出・入と薄明時間、旭川における月の出・入と月齢、その年の主な天文現象と惑星めぐり、旭川における日食・月食の予報、旭川における主な星食、惑星現象、天文台の概要などを紹介する。

○発行時期　　令和8年12月（予定）

○作成部数　　400部（A4版）

○配 布 先　　希望者、関係機関へ配付、科学館ホームページにＰＤＦ版を掲載。

［事業16-(3)］　各種パンフレットなどのＰＲ印刷物の発行　［継続］

案内パンフレットなど作成し、広く科学館の施設概要や展示内容などをＰＲする。

(1) 科学館館内案内リーフレットの作成・配付

年に一度程度、館内案内リーフレットを作成する。リーフレットは館内に設置するほか、市内外の施設や学校へ配付する。

(2) チラシの作成・配付

科学館の行事予定を掲載したチラシを作成し、館内に掲示、また、市内の小中学校へ配付する。チラシは夏休み、冬休み、ゴールデンウィークなどイベントに合わせて適宜作成する。

2　集客活動

○事業17　団体客の受入れ・誘致

［事業17-(1)］　教育機関や児童福祉事業を行っている団体の受入れ　　［継続］

理科教育の普及のため、学校や児童福祉事業を行っている団体と連携し、受入れを図る。

［事業17-(2)］　観光関係機関・団体と連携した市外団体や観光客利用の誘致　　［継続］

観光関係機関等と連携して、市外の団体や観光客の誘致を図る。

コンベンション等の受け入れ及び道外の観光関係者の視察等の受け入れを行いＰＲを行う。

○事業18　公聴・アンケートの実施

［事業18-(1)］　来館者アンケートボックスの設置　　［継続］

科学館のより良い運営と質の高い来館者サービスを確保するため、来館者からの意見・感想などを集約する。

アンケートボックスを科学館内に設置し、来館者の意見を集約及び記入者へ回答するとともに、館の事業運営に反映させる。

［事業18-(2)］　事業活動アンケートの実施　　［継続］

科学館事業に反映させるため事業参加者からアンケートを実施・集約する。

事業活動アンケートを事業参加者へ対し実施し、そのアンケート結果を次年度における事業活動へ反映させる。

○事業19　他施設・市民団体・学会との連携・協働

［事業19-(1)］　旭川市博物館や旭山動物園など他施設との連携　　［継続］

旭川市博物館や旭山動物園など設置目的や来館者層が共通した部分がある他施設と連携しながら、小中学校の団体見学など、市内をはじめ道内各地からの来館者誘致に取り組む。

（1）旭川市博物館や旭山動物園との連携による来館者誘致

○旭川市博物館や動物園と連携した事業活動

○旭川市博物館や動物園との協力による来館者誘致活動の展開

（2）旭川市博物館・彫刻美術館・井上靖記念館・旭山動物園・市外博物館施設との連携

○旭川生涯学習フェア「まなびピアあさひかわ」の共催

［事業19-(2)］　市民団体等との連携・協力　　［継続］

科学館の設置目的に合致した活動を行う市民団体等との連携・協力を図り、科学館の効果的な事業活動を展開する。

（1）日本野鳥の会旭川支部との連携による講演会の実施（再掲）

○共催事業として野鳥講演会を開催する。野鳥の会（講師選定）、博物館（会場の確保）、科学館（事前準備や司会進行）の３者が協力・連携し事業を進める。（隔年で実施）

（2）ジオパーク構想との連携

○大雪山カムイミンタラジオパーク構想推進協議会が実施するジオパーク構想推進事業「ジオフェスティバル」について、共催館として会場や体験ブースを提供する。

（3）その他の事業

○科学の普及に資する事業を様々な団体と共催で実施する。